

令和7年度津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会議事録

日時：令和7年7月25日（金）

午後1時00分から

場所：市役所5階 第1委員会室

【配付資料】

- 資料1 津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会委員名簿
- 資料2 津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略推進委員会設置要綱
- 資料3 地方創生推進交付金事業評価・検証シート【令和6年度実施分】
- 資料4 津島市の人口動向について
- 資料4-1 社会増減の年度間比較（R5→R6）について
- 資料5 第2期津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について
- 資料6 第2期津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略の関連事業（令和7年度）
- 資料7 第5次津島市総合計画の中間見直し及び第2期津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂スケジュールについて
- 参考資料 第5次津島市総合計画概要版、魅力マシマシ津島市ガイド等

開会

市長挨拶

（市長）

津島市では、人口減少、少子高齢化などの様々な問題に立ち向かうために、本市の実情に応じた目標や基本的方向、具体的な施策をまとめた地方版総合戦略「津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略」の第1期を平成27年度に、第2期を令和3年度に策定し、事業を戦略的かつ効果的に展開している。

本日の委員会では、第2期の総合戦略の進捗状況について報告させていただく。また、総合戦略は市の最上位計画「第5次津島市総合計画」と一体で策定しており、本年度は総合計画の中間見直しの時期となっている。これに合わせて、総合戦略の見直しも本年度進めていく。

本市の財政状況は、徹底的な行財政改革により大きく改善し、次のステップに進むための準備ができたことから、昨年度に引き続き、「まちづくり再生の推進」、「全国トップクラスの子育て支援の継続」、「定住促進のさらなる充実」を重点施策とし、明るい未来を創造するための政策を展開しているところである。今後についても、行財政改革に不断に取り組み、「市政の持続」を常に意識しながら、成長投資をさらに進め、津島市の「価値」を高めていく。

委員の皆様には、外部の方の視点で、忌憚のないご意見等をいただくようお願い申し上げます。

委員紹介

出席状況の報告

資料確認

委員長挨拶

本日は様々な立場の方に委員として出席いただいている。忌憚のない意見を積極的に発言いただきたい。

本委員会は急速な人口減少に歯止めをかけ、活力ある地域を創生していくため、「まち・ひと・しごと創生法」に基づき、国の長期ビジョン及び総合戦略を踏まえ、津島市の実情に応じた目標や基本的方向、具体的な施策をまとめた「津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略」を推進するために設置されたものである。

本日は、国の「地方創生推進交付金」を活用した事業の成果や、「第2期津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略」についての進捗状況等を説明していただくので、ご意見を頂戴したい。

それでは「(1) 地方創生推進交付金事業の進捗、評価、検証について」を議題とする。地方創生推進交付金を活用した事業の進捗や成果、内部評価等について、事務局から説明していただき、その後、各委員から意見を頂戴したい。

まず初めに資料3「地方創生推進交付金事業 評価・検証シート【令和6年度実施分】」の2ページ、「住んで良し！訪れて良し！津島 Style③創出事業～ハピネス津島大作戦！～」について事務局から説明をお願いしたい。

議題 地方創生推進交付金事業の進捗、評価、検証について

事務局より説明（資料3）

（委員長）

事務局の説明を受けて、意見・質問等があればお願いしたい。

（委員長）

「タベスケ」には大きな可能性を感じているため、この取組が何とか広がっていないかなと考えている。今回は、アプリでの利用が可能となったため、それによって何か変化があったか状況を伺いたい。

（事務局）

全国的に見ても、アプリの登録団体が29団体と少ない状況となっている。愛知県内のアプリの登録団体も、津島市、豊田市、江南市、安城市の4市のみで、状況は変わっていない。アプリ登録者の状況を見ると、令和7年4月から10名程度の新規登録があったが、店舗については1店舗しか新規に追加されておらず、店舗数の伸びも少ない状況である。アプリ登録者数、新規店舗の追加に向けたPRを何か考え、しっかり行っていきたい。

(委員長)

次に、資料3の5ページ、「官民連携による津島天王通り・ウォークブルストリートプロジェクト」について事務局から説明をお願いしたい。

事務局より説明（資料3）

(委員長)

事務局の説明を受けて、意見・質問等があればお願いしたい。

(委員長)

KPIの状況の指標2「エリアの来街者数（人）」について、基準値を大きく上回る結果となったと説明があったが、どういう意味合いなのか説明していただきたい。

(事務局)

基準値を300人と設定しており、実績値としては、2023年度は359人、2024年度は371人であるため、目標値は下回っているものの、基準値を大きく上回るという説明をした。

(委員長)

「(仮称)シビックプライド醸成拠点」の位置づけ、何をするものなのか教えていただきたい。

(事務局)

「(仮称)シビックプライド醸成拠点」については、出会いと体験を通じて地域に対する愛着や誇りの醸成とマチナカの賑わいに繋がる多様な交流と活動を生み出す場として、現在、令和8年4月オープンに向けて設計をしている。名称・愛称募集については、「街に誇りを心に彩りを」と題して募集をしており、地域の方が親しみやすいような名称・愛称を7月末まで募集をし、8月末にワークショップにて選定をして決めていくこととしている。

運営に関しては、現在、詰めているところではあるが、パティオ（中庭）において年間を通じたイベントを行うことを考えている。また、1階には地域の方以外の観光客も利用できるオープンカフェやキッズコーナーを整備、2階・3階には地域の方に使っていただく多目的スペースやキッチンスタジオを整備する予定である。

(委員長)

シビックプライドというと既に市に住んでいる方々に街への誇りや愛着を持ってもらうというイメージであったため質問をした。2階・3階については地域の方が使用し、親しんでいただくためのスペースとなるのであれば納得した。

(委員長)

さきほどの「住んでよし！訪れてよし！津島 Style③創出事業～ハピネス津島大作戦！～」の内容も含めて、意見・質問等があればお願いしたい。

(委員)

「タベスケ」について、私自身が登録していないので分からないのだが、登録店舗を増やす取り組みとして、アプリの機能で、この店舗は何時から何割引が始まります等の情報を掲示することはできないのか。

(事務局)

アプリの運用については、各店舗がアプリ内で売りたい商品を登録されるため、随時、市がそれを把握し情報発信することは難しい。利用者の方が店舗を登録し利用していただく形式であり、登録店舗が出品をした際に、利用者に通知が来るものであるため、随時、利用者個人で確認していただくものであると考えている。

(委員長)

「住んでよし！訪れてよし！津島 Style③創出事業～ハピネス津島大作戦！～」の内部評価について、「B」評価が多いように見て取れるが、総合評価は「A」評価となっており、どのような評価方法となっているのか教えていただきたい。

(事務局)

1 ページに、各評価項目の点数の配分方法を記載しており、その配分方法を適用すると、総合得点は 80 点となる。「A」評価の基準は総合得点が 80 点以上であるため、「B」評価が多いように見えるが、総合評価を「A」評価としている。

(委員長)

それではこの議題はここまでとして次に移らせていただく。

議題 第2期津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗について

事務局より説明（資料4・4-1・5・6）

（戦略1・子どもを産み育てやすい環境をつくる）

(委員長)

事務局の説明を受けて、意見・質問等があればお願いしたい。

(委員)

資料4-1について、説明いただいたように0～19歳までの年齢区分の子どもの数が令和6年度は47人の社会増になっており、津島市が、ここ数年間、力を入れて取り組んでこられた子育て支援事業の成果が、ようやく数字となって表れてきて

おり、大変喜ばしく思う。今後も、子育て支援事業を継続していき、津島市の子育て環境が整っているということを周知されていくことで、さらなる成果が数字となって表れてくることを期待する。

20～29歳の若年層の社会減を課題とされているが、進学などで津島市を離れても、いずれ津島市に戻ってきたいと思ってもらえるように、魅力的なまちづくりとともに、子どもの頃から津島市の歴史や文化に触れ愛着を育むような教育をしていくことが重要であると思われる。先日、新聞に掲載されていた「子ども記者プロジェクト事業」について、大変良い取り組みであると感じ、このような事業を続けていくことで、子どもの頃から津島市に愛着を持ってもらえるように取り組んでいただければと思う。

(事務局)

私どもとしまして、このように成果が数字で出てきますと、行ってきた施策が正しかったということで、今後も引き続き子育て支援施策に力を入れていきたいと考えている。また、一旦津島市を離れても、もう一度戻ってきたいと思ってもらうためには、仰っていただいたように、津島市の良い所を子どもの時から知っていただくことが重要と考えている。そういったことの一部を担うものとして、シビックプライド醸成拠点の整備を現在進めており、子ども記者プロジェクト事業についても今年度から実施していくこととしている。このような子どもの時から津島市を知っていただき、愛着を持っていただけるような事業を、今後も進めていければと考えている。

(委員長)

資料4-1について、説明いただいたように0～19歳の子どもの社会増減は令和5年度が±0人、令和6年度は47人の社会増となっているが、転入者数の増加というよりも、転出者数が令和6年度に大きく減少したことが、その要因と思われる。津島市内に住んでいる方が他市町村へ転出することを、子育て支援施策により食い止め、住み続けていただいているという考え方で問題はないか。

(事務局)

津島市は子育て支援施策が、他市町村より劣っているということが十数年前に言われており、それにより津島市から転出してしまうということが大変多かった。それが、近年の子育て支援施策の充実により、子育てを行っている方が転出をしなくなったということは委員が仰っているとおりである。

(委員長)

他の要因は、何か考えられないか。

(事務局)

当然、子育て支援施策の効果がすべてではないが、まちづくりにも力を入れており、具体的には天王川公園のランニングコースやスターバックスコーヒーの整備などのリニューアルにより、親子連れなどの子どもの姿を大変多く見かけるようになった。そういったイメージが市民に根付いてきたことも影響しているのではと考えている。

(委員長)

たしかに、天王川公園については、遊具なども立派なものが整い素敵な空間になっているなど感じている。

今後は、転出を食い止めたので、周辺市町村などからの転入を促す次のステージへの移行が必要ではないかと思われる。

(委員長)

質問等も尽きたようなので、引き続き、事務局から説明をお願いしたい。

事務局より説明（資料5・6）

(戦略2・まちの活力を高め、人の流れをつくる)

(委員長)

事務局の説明を受けて、意見・質問等があればお願いしたい。

(委員)

3点伺いたい。1点目は、多様な働き方の実現について、外国人の方が私の職場にも多くいらっしゃるのだが、日本語を話せない方に対しての支援策が今後必要なのではと思われる。2点目は、駅周辺の活性化について、津島といえば津島駅と思われるが、昔に比べると喫茶店がなくなったり、券売機前のスペースがなくなったり、閑散としている印象である。もっと魅力ある津島駅にしていっていただければと思う。3点目は、「巡回バス1日当たりの乗車人数」のKPIについて、直近数値が177人であるのに対し、目標値がだんだん減っていているが、意図したものか、目標であるため高めの設定にしても良いと思われるが、教えていただきたい。

(事務局)

1点目の外国人については、津島市においては日本語教室を一部実施しているが、増えている外国人に対して施策が足りていないと思われる。市としても資料4で説明したとおり外国人が増加していることは認識しているため、今後、何か外国人に対する施策を充実させていかなければと感じている。

2点目の津島駅については、駅前が寂しいというご意見は昔から多くいただいていた。駅前に関しては、現在、大規模な再開発を準備している。東側については、

建物を買収し取り壊しており、一体的に駅前広場として再開発を進めていこうと考えている。駅舎に関しては、現在、新たに建て替えるかを含め名古屋鉄道株式会社と協議を進めている。駅東、駅舎、駅西のロータリーの一体的な整備を今後進めていき、津島市の顔となる正面玄関である津島駅の整備をしっかりと進めていきたいと考えている。

最後の「巡回バス1日当たりの乗車人数」のKPIに関しては、巡回バスについて今後大きく在り方の見直しを検討しており、その中で目標値も改めて検討させていただければと考えている。

(委員)

ハローワークとしては、地元企業の魅力を発信することで地域の活性化につなげ若者を呼び込むことを目標としている。直近5月の有効求人倍率は1.01倍であり、コロナ前には追い付いてはいない状況であるが、若者がハローワークに来られないことを大変懸念している。説明のあった企業誘致に伴う人材の募集や「多様な働き方の実現」の施策の中で高齢者、障がい者、先程お話のあった外国人の方の雇用、進学のために地元を離れ卒業後に地元に戻ってこられるような魅力あるまちづくりのために、雇用の部分でハローワークとして協力してきたい。そういう機会があれば、相談を承れればと思う。

(事務局)

私どもとしても、20代前半からの転出の増加として、就職時に津島市を離れてしまうということが要因としてあると考えている。一番大事なのは働く場所であり、魅力ある働く場所がある名古屋、東京へ転出していってしまうことを防いでいきたい。そのためにも、企業誘致というところで、ハローワークと協力し、若者に津島市の働く場所の魅力を伝えていければと考えている。今後とも、ご協力をお願いしたい。

(委員)

企業誘致で新たにお見えになる企業への支援ももちろんしていきたいと考えているが、現在、津島市で事業を営んでいる企業への支援も重点に置いているため、商工会議所と少しでも連携し、企業説明会などによる魅力発信を行っていければと思う。

(委員長)

質問等も尽きたようなので、引き続き、事務局から説明をお願いしたい。

事務局より説明（資料5・6）

(戦略3・支えあい、安心して暮らせる地域をつくる)

(委員長)

事務局の説明を受けて、意見・質問等があればお願いしたい。

(委員)

金融機関の人間として、家を建てる人に対して住宅ローンなどの説明を行っているが、その中で、津島市定住促進事業補助金の説明もしている。若い人を呼び込むためと思われるが、条件として 50 歳未満を対象としており、何か根拠があるのか教えていただきたい。

(事務局)

もともと定住促進は若い世代を対象としている。神守町での都市計画の課題が愛知県から提言されていた際、その解消を図るため、住宅を建てやすく規制を緩め、人を呼び込み若い世代を入れ込む補助を実施したが、その当時は対象を 40 歳未満としていた。いざ定住促進の補助を始めていくと、40 歳だと、まだお子さんが小さいなどの意見などが出てきて、だんだんと対象年齢が上がってきて、現在の 50 歳未満になっているのが現状であると理解している。

子育て世代を呼び込み、津島市の低未利用地を有効活用し住んでいただくという観点で定住促進事業を実施している。昭和 40 年代にまとまった住宅団地ができたが、そういったところの世代交代も始まってきており、最近では中古住宅のリフォームも補助対象としている。また、市街化調整区域にも住んでもらえるように対象エリアも追加してきた。そのように、津島市の課題に対応しながら対象とする場所・世代を総合的に考慮してきており、現在の 50 歳未満という条件になっている。

(委員)

私自身、1 年前に津島市に転勤してきたが、子育て支援施策、津島駅の開発など若い世代を呼び込むための施策が素晴らしいと感じている。名古屋にもう少し短時間で行けるようになるともっと良いことだと思われる。

(委員)

私自身、子どもの頃、夏休みに東公園のプールに遊びに行っていたが、最近では、夏休みに遊びに行けるプールがなくなってしまったという印象があり、残念である。東公園をスポーツができる場所という説明があったが、競泳用としてのプールではなく、小学生が自分で自転車、巡回バスなどに乗って行けるプールがあると良いと思う。天王川公園や東公園はあるが、夏の屋外は暑くて遊ぶのは難しい。東公園であればプラネタリウムがあり、室内で遊べる場はもともとある。東公園が小中学生の居場所、遊びの場所として整えば、親として安心して遊んで来て良いよと言える。スポーツだけでなく、子どもが暑い中でも有意義に安全に遊べる場所を作っていただけると大変ありがたいと思う。

(事務局)

参考資料でお配りしている「スポーツ推進計画概要版」の施設整備方針に、今後どういった施設を整備していくかという方針が書かれており、プールの再整備も進めていくこととしている。大変暑く、外で遊ぶことが難しくなっている中で、屋内施設の整備も今後進めていければと考えている。こちらの資料も後程、ご覧いただければと思う。

(委員)

「防災・減災対策の推進」と施策にあるが、7月17日の2時間で100ミリぐらいのゲリラ豪雨により冠水や電車が止まるなどの被害が出て、津島市の脆弱性が露見された。限られたお金の中で、水の流れをよく研究していただき、少しずつでも手を入れていただきたい。

(事務局)

水害に遭われた方へ心よりお見舞いを申し上げます。市長より緊急メッセージとしてホームページにメッセージを掲載させていただいているため、そちらを読み上げる。

「令和7年7月17日に発生した水害で被害に遭われた皆様に、心よりお見舞い申し上げます。当日は朝から雨が断続的に降り続き、上空に線状降水帯が発生しました。2時間で100ミリに迫る過去にも稀な豪雨となり、津島駅周辺をはじめ、市内各所で道路が冠水しました。現在、市では被害に遭われた方を対象に、各種見舞金や保険金の請求等に必要な被害認定調査を実施しております。つきましては、被害認定調査等を希望される方は、危機管理課窓口まで是非ご連絡をいただきますようお願い申し上げます。」

こういったメッセージを伝えさせていただいている。こちらは、防災ほっとメールでも配信をしており、まずは、被害に遭われた方の現状を把握させていただき、適切な支援に早急につなげていきたいと市長から強い指示をいただいている。

津島市の排水対策としては大きく3点あり、1点目は善太川の拡幅工事についてであるが、こちらは、愛知県が主体となり工事を進めている。2点目は、市街地に流れ込む雨水の軽減として、市街化調整区域における水路改修を順次行っている。3点目は、ポンプなどの管理を土地改良区が行っているため、そちらに負担金を支払うことで改修を進めている。今後も、排水対策を順次進めていきたいと考えている。

(委員)

錬成館をよく利用させていただいているが、お手洗いの個数が少なく、故障も多いため、そちらの整備を早くしていただきたい。

(事務局)

錬成館のトイレ整備については、ご意見を踏まえ進めていきたいと考えている。

(委員長)

それでは、質問等も尽きたようなので、議題「第2期津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略の進捗状況について」は終了し、次に移らせていただく。

議題 第2期津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂について

事務局より説明（資料7）

(委員長)

事務局の説明を受けて、意見・質問等があればお願いしたい。

質問等もないようなので、議題「第2期津島市まち・ひと・しごと創生総合戦略の改訂について」は終了する。最後に市長から一言お願いしたい。

(市長)

貴重な意見を多数いただき感謝する。

7月17日に発生した災害について、翌日、消毒液を持ち、10軒ほど回らせていただいた。だいぶ状況も確認できてきたため、先程のメッセージを出させていただき、保険や見舞金などの関係で必要な支援を行っていければと思っている。もう1つ大事なことは、浸水エリアに車が入ってしまいうことがあったため、今回の浸水エリアを公開し、そのような浸水エリアには、できるだけ入らないように注意喚起を行った。併せて、土のうを8月の早い段階で、必要な皆様にお配りできるよう事前準備を進めており、本日、各浸水エリアの町内の代表者に対して、担当者が周知に行っている。

津島駅前周辺、天王通り周辺の水は、津島市民病院東側の善太川に排水される。善太川は愛知県が管轄する2級河川であり、本日の午前中に、中野県議会議員とともに善太川の未整備部分の早期整備を愛知県の西川建設局長に要望し、用地買収を含め予算を積極的につけると約束していただけた。

津島市は、「とかいなか」で、ちょうどよいまちである。「魅力マシマシ津島市ガイド」に書かせていただいている1つ1つの施策を実行し、津島市の価値を高める、住んでみたいと思っただけの子育て支援、まちづくりを進めていくことが大事であると考えている。また、20代の転出を食い止めるためには、近くに働く場所あることが重要であり、企業誘致を積極的に進めており、実りがあったと感じている。

スポーツ推進計画ということで、現在、市民の森を含め東公園一体についてスポーツでまち起こしを計画しており、プールもそうであるが、室内の子どもの遊ぶ場所が注目を集めているため、盛り込んでいきたいと考えている。

人口減少について、この10年で津島市の人口は約5,100人減少したが、市税収入は約3億7千万円増加している。日本の人口は、今後40～50年で3割減少し、

1億2千万人から8千万人になると予想されている。8千万人の人口は、ドイツやフランスより多く、イギリスは日本の半分の約6千5百万人であり、生き残る道はある。津島市の人口も減少はしているが、税収は増加しており、それを保てる施策を打っていくことが、津島市しいては日本の将来的な姿ではないかと考えている。

東洋経済の都市データパックというものがあり、正確な情報が掲載されている。住みよさランキングは812位中389位であり、半分よりちょっといい状況となっており、西尾張9市の中でも3番目である。財政健全化度においても792位中205位で上位4分の1に入っており、徐々に津島市の状況は回復基調にあると言える。

1つ1つ政策を打っても、浸透していくまでは、時間差で5年10年、あるいは、もっとかかる。市民の皆様は、スターバックスコーヒー、宮きしめん、丸善雄松堂が来て、今後、津島駅が変わっていくというような1つ1つ現実的な見える化をしていき、期待感を持ってもらい、津島市に戻ってこようと思っただけのように、今から種を蒔いていくことが必要ではないかと感じている。

(委員長)

本日予定した議題はすべて終了したので、事務局にお返しする。

(事務局)

それでは、本日はこれにて閉会とする。

なお、資料7で説明したとおり、今年度は総合戦略の改訂案について、11月に説明を行う予定であるため、よろしくお願ひしたい。

閉会